

# 富士宿・村国地区

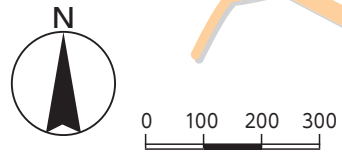
## 中世の渋江氏 ゆかりの地を歩く

富士浅間神社を中心に中世の門前市が開かれた富士宿から渋江鋳物師が居住し、活躍していた地を訪ねてみませんか。



**バス時刻のお問合せ**

朝日バス  
越谷営業所  
TEL 048-970-5170





# 富士宿・村国地区

見どころガイド

## ① 富士浅間神社

祭神は、木花開耶姫命で、神社の由緒によると、「当時の岩槻城主太田氏が城下で最も標高の高いこの場所を選び社殿を造営し、駿河国富士山頂から神霊を勧請して、地名を富士宿と名付けた」とあります。



富士浅間神社の周辺は、かつて「富士宿町」と呼ばれ、中世においては市が立っていました。

毎年7月1日の「初山」では、この1年間に生まれた子供達の無事な成長と無病息災を願って神社境内にある富士山に詣で、参拝した赤ちゃんの額などに朱印を押してもらい、帰りに団扇を買って親戚などに配るという風習があります。

## ② 元浅間神社

元浅間神社は、現在元浅間公民館の屋上に祀られていますが、かつて国道16号バイパスの所に塚があり、社殿に上がるにはかなりの階段を登ったそうです。富士浅間神社と同じく、木花開耶姫命を祀っており、祭礼の7月1日の初山には通りに提灯が並び、神社の参道には絵や歌の付いた灯笼が何本も立っていたそうです。



一説には、「嵐の晩に御幣が富士浅間神社まで飛んで行った」ため、祭神を富士浅間神社に移し祀ったという言い伝えがあり、「元浅間」の名もこの話に関係があるのかも知れません。

境内には、区内で一番古い時期の庚申塔があります。

## ③ 知楽院

臨済宗のお寺で、合城山知楽院といい、釈迦如来を本尊としています。山号の合城山は、岩槻城とその南方の中世城郭のあった城山との中間に知楽院があったことからつけられたと伝えられています。



知楽院には、岩槻城主の太田資頼の供養塔や岩槻藩で師範役を務めた「直心影流」の村雨政陽の墓があります。

## ④ 岩槻文化公園

岩槻文化公園は昭和63年(1988)に開設されました。公園内には様々な遊具のほか体育館、陸上競技場、サッカー場、テニスコートなどもあり、区民のスポーツ振興に役立っています。



また、毎年8月の花火大会や10月の「岩槻やまぶきまつり」など、家族で楽しめるイベントも開催されます。

## ⑤ 庚申塔と道しるべ

「猿田彦大神」と刻まれた庚申塔です。側面には手の形が刻まれ、方向を示す道しるべになっていて、上は「此方志おんしミちーり三丁(この方慈恩寺道一里三町)」、下は「此方のしまミち十五丁(この方野島道十五町)」と刻まれています。



## ⑥ 村国の久伊豆神社

祭神は大己貴命で、村国地区の鎮守です。境内の狛犬の台座に「岩月」の文字が刻まれています。



現在の岩槻区の「岩槻」は江戸時代の中頃から使われています。明治以前は漢字よりも発音の「イワツキ」が先があり、「岩付、岩附、岩築」などの漢字も当てられていましたが、岩月の文字は珍しいものです。

本殿の右側に早咲きの桜があり、やや濃いピンクの花がソメイヨシノより1週間程早く咲きます。

## ⑦ 渋江鋳金遺跡

この遺跡は、渋江鋳物師といわれる室町時代から戦国時代にかけて渋江郷に居住して元荒川の砂鉄を使って鋳物を製造した人々の工房跡で、鋳物製品を作るための鋳型や不純物の塊である鉄滓などが出土しています。



渋江鋳物師の作品は、区内長宮の大光寺の文明鱧口(市指定文化財)や日高市の聖天院の鱧口として残されています。

お問い合わせ

岩槻区役所観光経済室 〒339-8585 さいたま市岩槻区本町3-2-5 TEL 048-790-0118 FAX 048-790-0260

編集

城下町岩槻歴史散策実行委員会語り部会

このマップは、2,000枚作成し、1枚当たりの印刷費は17円です。